

# 一九七七年以前出土の木簡（一六）

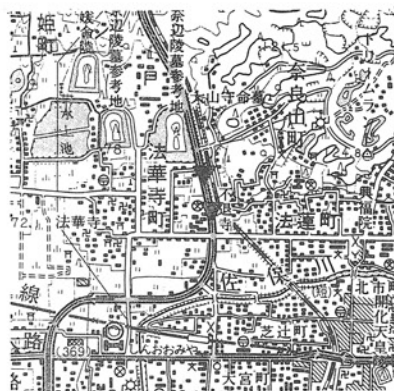
## 奈良・平城京跡左京一条三坊十五・十六坪

1 所在地 奈良市佐紀町

2 調査期間 第五五・五六・五七次調査 一九六九年（昭44）三月～一二月

3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

4 調査担当者 代表 坪井清足



(奈良)

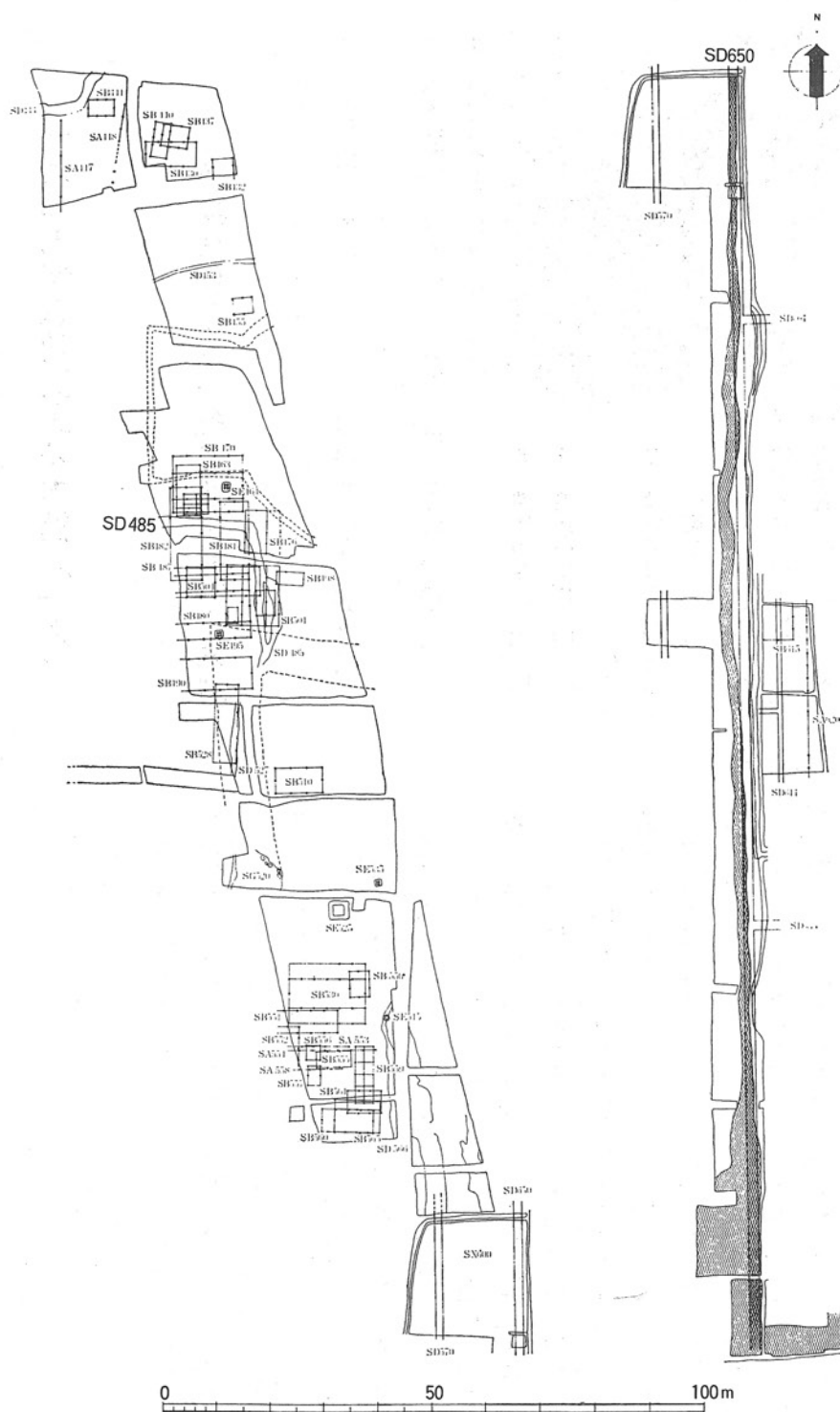
- 5 遺跡の種類 都城跡
  - 6 遺跡の年代 四世紀～一〇世紀
  - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- この調査は、国道二四号線バイパス建設に伴う事前発掘調査の一環として行なわれたものである。検出し

た主な遺構は、古墳二基（平塚一・二号墳）と、ウワナベ古墳の南方に造営された庭園を伴う貴族の邸宅跡、平城京東三坊大路の東側溝などである。一連の調査ではウワナベ古墳に関連する遺構なども検出されている（第五四、六〇次調査）。

木簡はこのうち貴族の邸宅内を西から東へ流れ、南折して平塚二号墳北濠跡の低地に流れ込む溝SD四八五から三三三点、平城京東三坊大路東側溝SD六五〇から四二点出土した。

前者は貴族邸宅内で使用されたもので「楽毅論」と記した習書や参河国の荷札が多いように、貴族の生活と何か関連するところがある。一方、伴出した墨書土器には「喜尼家」「倭」「稻」「論語」「由加和銅□□正月十三日」と記したものがあつた。全体として奈良時代前半の遺物が多く、後半は使用されていなかったと考えられている。

一方、後者は東三坊大路東側溝に投棄されたものである。溝の堆積は三層に分かれ一〇世紀初頭まで存続するが、木簡は九世紀末までの遺物を含む下層から出土した。とくに〇〇〇の告知札の中に天長五年（八二八）の年紀をもつものがあることが注目される。伴出遺物としては、日常什器に緑釉や灰釉をほどこした陶器、銅銭、木器、



漆器、金属器などが多量に出土している。銅銭は皇朝十二銭のうち乾元大宝を除く他の一種計七二五点に達している。また黒書土器には「大北蘭」「隅寺」「酒井」「池上南」「友田寺」などがある。

## 8 木簡の釈文・内容

## SD四八五

(1) 「楽毅論」  
夏

□<sub>[官カ]</sub>□<sub>[毅論]</sub>

(176)×(43)×4 081\*

(2) □<sub>[官カ]</sub>奴婢食料米一斛

(127)×29×5 039\*

## (3) 「参河国青×

・「安得米□

(64)×17×3 019

## (4) 「参河国農多郡鴨田郷厚石里□

(143)×21×3 039

## (5) 「参河国額田郡謂我郷白米五斗

170×20×4 031

(6) 「八名郡多米里多米部□<sub>[磨カ]</sub>庸米五斗<sub>[斗カ]</sub>

・「和銅六年

203×26×4 051

(7) 「参河国八名郡片山里大伴□<sub>[健]</sub>

・「庸米五斗 和銅六年

(158)×13×6 051

## (8) 「参河国八□

・「戸主若日下部馬□

(83)×22×4 019

## (9) 「参河国八名郡神里飽×

・「和銅六年十<sub>[月]</sub>□

(122)×27×4 019

## (10) 「丹波国船井郡出鹿郷曾尼里秦人吾□米

184×(13)×7 031

## (11) 「吉備里海マ赤麻呂米六斗

・「靈龜三年六月

216×22×3 032\*

## (12) 「淡路国津名郡賀茂里人

・「中臣足嶋庸米三斗并六斗  
同姓山<sub>[イ]</sub>庸米三斗

275×34×8 032

## (13) □□郷中マ里□□

・「養老七年七月十八日

(90)×17×4 081

## (14) □保長葛木 □□

(100)×22×5 081

## SD六五〇

## (15) 「人々荊

・「人々荊 (題籤軸)

(102)×27×5 061

- (16) 波羅<sup>〔蜜カ〕</sup>多經卷  
 勝須波羅密<sup>□</sup> (左側面)  
 卷卷 (103) × 23 × 12 081  
 (18) 「物忌」  
 ×月卅日工漆人 (116) × 20 × 4 081  
 (20) 仁彼<sup>々</sup>彼<sup>々</sup>仁佐  
 仁彼<sup>□</sup>仁佐久<sup>□</sup> (116) × 50 × 4 081
- (17) 絹収下<sup>□</sup> (21) 「鹿矢」  
 御<sup>□</sup> (22) 「別当殿」  
 絹収<sup>□</sup> (22) × 19 × 2 031 \*  
 八月十<sup>□</sup> (題籤軸) (74) × 27 × 5 061
- (23) 「天<sup>〔七〕</sup>長<sup>□</sup>年二月二日<sup>〔序北〕</sup>間<sup>〔垣〕</sup> 小黒万呂漆拾駄 将領榮井真繼<sup>□</sup> 愛宕麻呂<sup>□</sup> 寛安良麻呂<sup>□</sup> 麻呂<sup>□</sup>」  
 (372) × 33 × 3 011
- (24) 「告知 往還諸人走失黒鹿毛牡馬一匹<sup>〔在驗片目白〕</sup> 件馬以今月六日申時山階寺南花蘭池辺而走失也 九月八日 若有見捉者可告来山階寺中室自南端第三房之」  
 993 × 73 × 9 051
- (25) 「往還<sup>〔カ〕</sup>告知<sup>〔被盜カ〕</sup>斑牡牛一頭<sup>〔志左右本〕</sup> 在歳六許<sup>〔爪カ〕</sup> 右牛以十一月卅<sup>□</sup> 聞給人益坐必々可告給<sup>〔毛カ〕</sup>」  
 876 × 50 × 7 051
- (26) 「告知捉立鹿毛牡馬一匹<sup>〔毛カ〕</sup> 驗額髮<sup>□</sup> 右馬以今月一日辰時依作物食損捉立也至于今日未来其主<sup>□</sup> 馬<sup>□</sup> 可来隅寺<sup>□</sup> 天長五年四月四日」  
 1134 × 51 × 75 051

(27) 「告知往」□

(266)×58×4.5 019

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報 一九七〇』

(一九七〇年)

同『平城宮発掘調査出土木簡概報』七(一九七〇年)

同『平城宮発掘調査報告』Ⅵ(一九七五年)

(鬼頭清明)

